



### 見方・考え方を変えると？

6月の全校朝礼で、以下①②③のとおり「二宮金次郎（二宮尊徳）」の話をしました。

- ①江戸時代、金次郎は貧しい家庭に生まれ、労働中も寸暇を惜しんで勉学に励み、後に、農政学者として東北から九州に至るまで、困窮した村々を復興させた。昭和に入り、「勤勉・儉約の精神の象徴」として幼少期の柴（薪？）を背負い歩きながら読書する像が全国の小学校に建てられるようになった。
- ②芥川龍之介は『侏儒の言葉』の中で「彼等（注…保護者）は尊徳の教育に寸毫（すんごう）の便宜をも与えなかった。いや、寧（むし）ろ与えたものは障碍（しょうがい）ばかりだった位である。これは両親たる責任上、明らかに恥辱と云わなければならぬ。」と書いている。
- ③「歩きスマホ」が社会問題となっている現在、「歩き読書」はいかがなものかということで、倒木や切り株に座って読書する金次郎像に形が変化している。

②については、確かに、私たちは金次郎の艱難辛苦（かんなんしんく）を経て立身出世した姿に注目するものの、保護者にまで考えが至りません。しかし、児童虐待や子どもの強制労働について叫ばれている現代だと、芥川龍之介のような見方をする人もいます。つまり、一方では金次郎は家計を助けるためによく働く少年、もう一方では勉強の環境を与えず強制労働を強いる保護者という捉え方ができるわけです。芥川龍之介は今から100年前にこのような指摘をしていたのです。

③については、時代の流れ、世間の目には勝てなかったということです。しかし、金次郎像は、時間を惜しむべく「歩きながら」読書するところに意味があるのであって、「座って」読書となると本来の意味とは違ってしまいます。そもそも、「歩きスマホ」をする人はいても「歩き読書」をする人がいるでしょうか？（スマホでの読書の場合もありうるとは思いますが。）それに金次郎は江戸時代の人であって自動車もありませんし、作物等の運搬中に野山や畑で、いったいどれくらいの人とすれちがうのでしょうか？ 安易に変えて良いものでしょうか？

ものの見方・考え方を示唆した芥川龍之介ですが、例えば、アメリカ大陸を発見したコロンブスについても、一方では開拓者という見方もできますが、もう一方では先住民からすると「侵略者」となります。「開拓者」という場合はヨーロッパ側の視点になります。世界的なSDGsの環境保護にしても、一例を挙げると、「太陽光発電」の拡大が注目されていますが、設置するために森林伐採をし、森林破壊・環境破壊という矛盾があり、生態系への影響や土壌及び景観の問題も叫ばれています。まして、台風や大雨による土砂崩れにより太陽光発電設備が場合によっては海洋に流出して海上で発電し続けることも考えられます。機械ですので、耐用年数もあり定期的なメンテナンスが必要ですし、部品の供給も永遠ではありませんので、リサイクルされない部品はいずれ「ゴミ」になります。海ではマイクロプラスチックが大きな問題となっています。

ある企業のマラソンランナーの話です。翌日にレースを控えていたのですが、会社の同僚の付き合いを断り切れず深酒をし、睡眠不足のままレースに出場、なんと自己新記録を更新。その選手は、レースの前には深酒をするようになったがそれ以降記録は伸びませんでした。そのたった1回の経験が忘れられなかったのです。体調管理していればもっと良い記録が出せていたことに気づくべきでした。

蛇足ですが、かつて国内のある自治体でミケランジェロのダビデ像（レプリカ）の裸体に下着をはかせろという住民の声があったという報道もありました。時代は変化し、「二律背反」は永遠に続く。

お願い…本校周辺道路は7:30から8:30まで一部スクールゾーンになっています。お子さんの送迎等にご注意くださいますようお願いいたします。  
(校長 橋本 浩)